

日本語 (8)



目 次

- 短歌と俳句
- 一 短歌
- 二 俳句
- 世界の国々
- 一 南アメリカ
- 二 インカ帝国
- 三 外国めぐり
- アフリカの父

文字のいろいろ

通信と報道

- 一 早くなった通信
- 二 空とぶニュース

学校新聞

心に太陽を持つ

天体と地球

- 一 ロベルト君の家で
- 二 地球は回っている
コロナirusのたんけん
ことばを分ける

微生物と細きん学者

微生物

- 一 オズワルド＝クルース
- 二 カルロス＝シヤガス

雨ニモマケズ

野口英世

美しい国立公園

今の人々の暮らし

しょく業のいろいろ

貸へいの役目

物のねだん

社会の進歩

科学と技術

- 六 みんなで楽しむ美術

わかりやすい表現を

コーヒー物語

おもなことば

今までに習つたかん字

新しいかん字

先生と父母へ

日本



語

林の実 學園

(8)



目 次

短歌と俳句

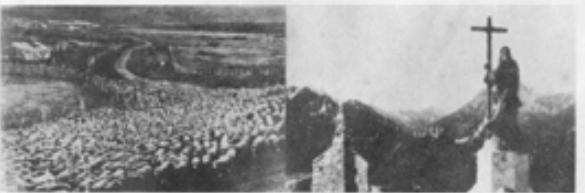
- 一 送歌 四
- 二 俳句 八
- 三 世界の国々 十一
- 一 南アメリカ 十一
- 二 インカ帝国 十八
- 三 外国めぐり 二十二
- アフリカの父 三十三

文字のいろいろ

- 通信と報道 四十
- 一 早くなった通信 四十五
- 二 文と書ニユース 四十八
- 学校新聞 五十三
- 心に太陽を持つ 五十九
- 天体と地球 六十
- 一 ロベルト君の家で 六十
- 二 地球は回っている 六十六
- コロンブスのたんけん 六十九
- ことばを分ける 七十八

微生物と細菌学者

- 一 微生物 八十一
- 美しい国立公園 八十五
- 二 オズワルドミクルーツ 八十五
- 三 カルロスミシャガス 八十九
- 四 尾口英世 九十三
- 雨ニモマケズ 九十八
- 微生物と細菌学者 九十九
- 一 亂生物 一百一
- 二 人のくらし 一百一
- 一 しまく葉のいろいろ 一百五
- 二 買ひいの役目 一百七
- 三 物のねだん 一百九
- 四 社会の進歩 一百三
- 五 科学と技術 一百一
- 六 みんなで楽しむ美術 一百六
- わかりやすい表現を 一百九
- コーヒー物語 二十二



*
おもなことは
今までに習つたかん字
新しいかん字
先生と父母へ

短歌と俳句

一 短 歌

短歌は、二千年もむかしから、日本人によつて作られてきた短い詩です。その形式は、だいたい五・七・五・七・七の三十一音からなっています。短歌を集めた歌集は、最も古い万葉集を初めとして、その外たくさんあります。

次にかかる短歌の作者、柿本人麿や紀友則は、一千年以上もむかしの人で、斎藤茂吉・窪田空穂・北原白秋・石川啄木などは、近代の歌人です

散

柿 本 人 麿

ひむがしの野にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば

月かたぶきぬ

東の方の野には、夜明けの光のさしそめるのが見え、西をふりかえる
と、日がかたむいてうすい光をたたえている。

紀 友 則

久方のひかりのどけき春の日にしづ心なく花のちるら
む

のんびりとした春の日に、どうしてこのように落ちついた心もなく花
が散つているのであろう。

斎 藤 茂 吉

朝あけて船より鳴れる太笛^{太え}のこだまはながしなみよろふ山

短歌と俳句

一 短 歌

短歌は、二千年もむかしから、日本人によつて作られてきた短い詩です。その形式は、だいたい五・七・五・七・七の三十一音からなっています。短歌を集めた歌集は、最も古い方葉集（まんようしゅう）を初めとして

その外たくさんあります。

次にかかげる短歌の作者、柿本人麿（かきのもとのひとまろ）や紀

友則（きのとものり）は、一千年以上もむかしの人で、齋藤茂吉（さいとうもきち）・窪田完穂（くぼたうつほ）・北原白秋（きたはくはくしゅう）・石川啄木（いしかわだくばく）などは、近代の歌人です

柿 本 人 麬（かきのもとのひとまろ）

ひむがしの野（の）にかぎろひの立つ見えてかへり見すれば
月かたづきぬ

東の方の野には、夜明けの光のせしそめるのが見え、西をぶり

かえる

と 日がかたむいてうすい光をたたえている。

紀 友 則(きのとものり)

久方のひかりのどけき春の日にしづく心なく花のちるひ
む

のんびりとした春の日に、どうしてこのように落ちついた心も
なく花が散っているのであつ。

斎 藤 茂 吉(さいとう まさきち)

朝あけて船より鳴れる太笛のこだまはながしなみよろふ山

(新漢字 短 句 散)

(005. .jpg)

静かな朝の港に船の汽てきが鳴る。その汽てきの音は、港の後
ろにならびそろつてある山々に、長くこだましている。

窪 田 空 穂(くぼたうづほ)

わざわざのせのびはすれどすこしたらずみんなん蟬(ぜみ)の
いよよ鳴き入る

木に止まっている蝉を取ろうと 子どもがせのびして手をのばしてい

る。しかし、蝉はその指先の少し上で鳴き入っている。

北原白秋(きたはくしゅう)

春の鳥な鳴きて 鳴きてあかあかと外(と)の面(も)の草に日の人
る夕(ゆうべ)

春の鳥よ 鳴かないでおくれ。草原の向こうに今、あかあかと
日が

はいる夕ぐれなのだ。

石川啄木(いしかわたくぼく)

ふるむとのなまりなつかし停車場の人(み)の中にそを
ささじゆく

遠いふる里のなまりはなつかしい。それがささじたくて、停車場
の人(み)

みの中にはいつていく。

ひむがし(ひんがし)…東。かぎろひ(かぎろい)…かがやく日の
光。かへり見す…ぶりかえつて見る。かたぶきぬ…かたむいてい
る。久方の…」れはかざりの「よば。のじけき…のんびりとした。

じづ心（しづし）…落ちついた心。なみよひふ（なみよひふ）

⋮

なりびわわう。いよい・いよい・な鳴れい・鳴へな。外の面…
外の広い所。そを…それを。

（新漢字 停 里）

（006.jpg）

二 俳 句

俳句は、五・七・五の十七音で作る短い詩で、今から四百年ほど
前に始められました。むかしの俳人では、松尾芭蕉（まつおばしょ
う）・与謝蕪村（よせぶそん）・小

林一茶（いばらやし）など、また近代では、正岡子規（まさおかし
き）・高浜虚子（たかはまきよし）などが、よく知ら
れています。

しづけさや岩にしみ入る蝉（せみ）の声

松 尾 芭 蕉（まつおばし）

蝉の声が、岩にしみ入るよつた感じで、そこに特別の静けさが

ある。

春雨（はるさめ）にぬれつゝ屋根の手まりかな

与謝蕪村（よせぶそん）

ほつり上げたまま、屋根に置きわすれられた美しい色糸の手まりが、

ひつそりと春雨にぬれている。

あさがほにつるべとられてもらひ水

千代女（ちよじよ）

朝 水をくみに行くと つるべにあさがおのつるが、まきついていた

ので、となりへ水をもらひに行つた。

われと来て遊べや親のない雀（すずめ）

小林一茶（こばやしげいしゃ）

子すずめよ、親がないのでせびしいか。わたしもおまへと同じだよ。

おいで、いつしょに遊ぼうよ。

八人の子どもむつまじクリスマス

正岡子規（まさおかしき）

クリスマスに、八人の子どもたちがみな集まつた。元気でなか

よく話

し合っている。

(007. ジュウ)

かげろうに包まれ遊ぶ子どもがな

高 浜 虚

子(たかはまさよし)

土の上に かげろうがたつて いる 子どもたちば かげろうに
包まれ

て 元気よく遊んで いる。

かたに来て人なつかしや赤とんぼ

夏 目 漱 石(なつめそうせき)

赤とんぼが来てかたに止まつた。とんぼも人がなつかしいの
か、人の

そばに寄つてくる。

しづかひや (しづかひや) : 静かな(じよか)。手まりかな(てまりか)。手ま
りだ。

あわがほ (あわがお)。もりひ水 (もりい水)。遊べや・遊ぼうよ。
むつまじ・なかよし。かげろう・あたたかい日(ひ)に、土の上(じやう)にゆ
らゆ

らいたつもの。なつかしや・なつかしいね。

世界の国々

一 南アメリカ

雨がふっています。母と姉がぬい物をしているそばで、わたしは宿題の南アメリカの地図を、帳面に書いていました。

国を色分けにしてね
り、国の名を書き入れ
て、姉に見てもらひて
いると、兄が帰つてき
ました。

兄は、わたしのかい
た地図を見ました。

(新漢字 包 姉 宿 帳



(008.jpg)

「なかなかきれいにかけている。はるえは器用だな。」

「だめなの、うまくかけないのよ。」

「いや、うまいよ。ちょっと、それを貸してやる。試験してやろ

う。」

「いやよ。にいさんの試験なんか。」

「まあいいから、答えてばらん。覚えたかな。」

「さあ。」

「ブラジルと国境を接していない国の名は。」

「エクアドル、それからチリよ。」

「そうだ。今度は、南米の国の名を、北から順に言つてばらん。」

「ベネズエラ・ブラジル・コロンビア・エクアドル・ペルー・ボリビア・パラグアイ・ウルグアイ・チリ・アルゼンチン。」

「まだあるね。独立国じゃないが……。」

「ギアナ。」

「それでおしまい。ギアナは、東からフランス・オランダ・イギリスと二国の植民地に分かれている。今度は、少しまずかしいよ。各国のおもな産物をあげてばらん。」

「まずかしいわ。」

考えながら答えましたが、わからぬものもありました。兄は、地図をさしながら、教えてくれました。兄は、地図

南アメリカには、世界でいちばん長い山脈といわれるアンデス山脈が、南北に走っています。この山脈の西側をしめる国々、ベネズ

エラ・コロンビア・エクアドル・ペルー・ボリビア・チリには、鉱

(新漢字 貸 驗 境 鉱)

(000.jpg)

物を多く産します。石油・鉄・金・銀・すず・なまり・硝石(しょうせき)などが、

そのおもなものです。そして、この山脈の東側の国々、ブラジル・パラグアイ・ウルグアイ・アルゼンチンには、平野が多くて農業や牧畜(ぼくしょく)がさかんです。コーヒー・綿・とうもろこし・小麦・肉・羊(よう)毛・マテ茶・さとうなどを多く産します。

兄が産物の話をしている時、父が町から帰つてきました。

「地理の勉強かい。どれ、おとうさんも問題を出そうかね。」

「だめよ。おとうさんはむずかしい」とを聞くから。

「いや、はるさじやない。一郎にだよ。」

「ぼくですか。」

兄は、しぶい顔をしました。

「いいかね。インカ帝国というのは、どこにあった国かね。」

「たしかアンデス山脈の中央にあったたと思います。」

「それは、いつごろ。」

「むかしです。年代はわすれました。」

父は、インカ帝国の話をしました。母も姉も、ぬい物の手を休めて聞きました。

三百年も、アンデス山脈に栄えていた土人の國、インカ帝国が、スペインの軍隊にほうぼされた話を聞いて、わたしはたいそうあわれに思いました。

「かわいそつね。」

と、母が言いました。

(新漢字 油 麦 毛 糜)

(010. .jpg)

「こうして、スペインは、アンデス山脈の西側をせい服し、アルゼンチンも手に入れた。だから、その国々では、スペイン語を使っているんだよ。」

「南アメリカでポルトガル語を使つてゐるのは、ブラジルだけね。」

「そうなんだ。ブラジルを発見したのは、ポルトガル人だからね。」

「おとうさん、アルゼンチンなどは、いつスペインから独立したん

ですか。」

アンデス山脈

南アメリカの国々			
国	名	首 都	面積(一・〇〇〇平方キロ)
ペ	ネ ズ エ ラ	カ ラ カ ス	九一二
ブ	ラ ジ ル	ブ ラ ジ リ ア	八、五一四
コ	ロ ン ビ ア	ボ ゴ タ	一、一三九
エ	ク ア ド ル	キ ト	二七一
ペ	ル ー リ	リ ー マ	一、二八五
ボ	リ ビ ア	ラ リ バ	一、〇九九
パ	ラ グ ア イ	ア ス ン シ オ ン	四〇七
ウ	ル グ ア イ	モ ン テ ビ デ オ	一八七
チ	リ サ ン チ	ア ゴ	七四二
アル ゼ ン チ ン	ブ エ ノ ス リ ア イ レス		二、七七八
ギ ア ナ イ ギ リ ス 領	ジ ョ ー ジ タ ウン		二二九
ギ ア ナ オ ラン ダ 領	バ ラ マ リ ボ		一四一
カ イ エ ン ヌ			八九

「まず、ボリビアが一千八百九年に独立した。」

「それから。」

「アルゼンチン・コロンビアというふうに、二十年ぐらいの間に

みな独立して共和国になつたんだよ。」

おやおや、地理から歴史の話になつてしまつたね。」

父は、こう言ってわらいました。

二 インカ帝（てい）国

今から約二万年前、アジア大陸の方から、アメリカ大陸にわかつたといわれる人類は、だんだん南に移ってきました。そして、いく世紀か過ぎるうちに、アンデス地帯に、集団を作つて住みつく者が多くなりました。集団がいくつもでき、その間にたびたび戦争が起りました。

勝つたり負けたりしながら、時代の流れの中で、文明を築いていきました。

インカ帝国は、一千三百年前から、中央アンデスにあつた小さな国で、初代の皇帝をマンコ＝カパックといいます。この皇帝は、周囲の国をほうぼし、インカの領土を広くしました。

その後、インカ帝国はますます栄えて、ついに、今のペルー・エクアドル・コロンビア・チリの一部をふくむ大きな国になりました。

インカ国民は、勇氣に富んでいて、その文化も進んでいました。農業・工業・建築など、よく発達していて、見事なてんや神でんなどを建てていました。皇帝の住むクスコは、りっぱな都でした。

近代になつて、学者たちが、インカのいせきから発見したその時代の織物・焼き物など、実によくできていて、今の人にも作れないほどの物があるといつゝことです。

(新漢字 帯 築 皇 勇

(012. jpg)

一千四百九十二年に、コロンブスが新大陸を発見して後、スペイン人・ポルトガル人は、ぞくぞく新大陸にわたつてきました。

ポルトガル人は、ブラジルに来たのですが、スペイン人は、まずメキシコに来ました。メキシコをせい服したスペイン人は、太平洋を南に下つて、南アメリカの海岸に上陸しました。そして、そこが金・銀その他のたから物に満ちたインカ帝国であることを知りました。

スペインのたんけん家、フランシスコ＝ピサロは、三百人の兵隊をひきいて、今のペルーにやつてきました。インカの文明が進んでいたとはいっても、兵器はゆみやだけでした。そこへ、鉄ぼうを持ったスペインの兵隊が、乗りこんで来たのですからたまりません。さんざんに負けてしました。

第十二代の皇帝アタワル・パは殺され、多くのたから物はうばわれ美しい首都クスコも、こねされてしまいました。

しかし、アンデスに栄えたインカ帝国は、一千五百二十一年、ついにほひぼされました。そして、アンデス山脈の西側一帯は、スペインの植民地になつたのです。

(新漢字 下 滿)

(013. jpg)

三 外国めぐり

(1) ニューヨーク

ニューヨークは、アメリカ合衆(がつしゅう)国にあつて、世界でいちばん大きい商業都市です。

港には、世界各国の船が出入し、空港

には、外国の飛行機もたゞ間なく発着しています。

ニューヨークには、エンパイア＝ス

テート＝ビルを初め、高い建物が林のように建っています。ここに国際連合の本部があつて、各国の代表が集まり、世界の平和について、いつも話し合いをしています。

アメリカは、もと、イギリスの植民地でしたが、一千七百七十六年に独立しました。国民は、自由を重んじ、進んで事を行なう気持ちに富んでいます。鉄や石油が多く、産業がよく発達していく、世界一の金持ち国といわれています。

(2) ロンドン

ロンドンは、イギリスの首府で、きりの都といわれています。

ウェストミンスター寺院には、イギリス王室代々の墓や、歴史に名を残した大人の記念碑があります。また国立美術館

(014. .j p g)

やロンドンなど、有名な建物があります。

イギリスは、大むかし、アングロ＝サクソン族の建てた小さな国です。国民はがまん強く、勇気があります。

イギリス人は、十六世紀の終わりころからさかんに海外に出て、世界各地に植民地を作りました。しかし、それらの植民地も、今はほとんど独立しています。けれども、英語は商用語として、世界中で通用しています。

(3) パリ

美術の都といわれるパリは、フランスの首都です。町の作り方も、広場や公園なども美しく、がいせん門のあたりのながめは、すばらしいものです。

パリには、ルーブル博物館・リュクサンブル美術館などがあつて、絵やちょうじくは、いく日かかつても見切れないほどです。

フランスは、五百年前、フランク族

の建てた国で、国民は、心がやさしく
自由を愛し、美しいものをとつとびます。

フランスは、世界の画家が、一度は行きたいと思つあこがれの国です。

フランス語は、世界でいちばん美しいことばだといわれています。

(新漢字 莫

(015.jpg)

(4) ローマ

イタリアの首府ローマは、世界の都ともよばれています。それは、二千年のむかしに栄えた大ローマ帝国の都だったからです。また、もう一つのわけは、その近くにバチカン市国があつて、ここにカトリック教の世界本部バチカン宮があるからです。

イタリアは火山国です。むかし、ベ

スピアス火山のふん火で、ローマに近

いポンペイの町がうずまりました。そこから hari 出される物は、ヨーロッパ文化がどのようにして育つってきたかを知るのに大切なものとなっています。

イタリアは、長いつのよくながり、長いをして、地中海につき出た半島国です。音楽の国ともいわれ、国民は、ラテン系で、にぎやかなことが大きです。

(5) ジュネーブ

ジュネーブは、美しいレマン湖のほとりにある静かな町です。ここに、万国赤十字社連盟の本部があります。

スイスは、ヨーロッパの屋根といわれるアルプス山脈の中にある小さな国です。けしきが美しいので、ヨーロッパの公園

(新漢字 万 盟)

(016.jpg)

ともよばれます。

スイス人は、心から平和を愛し、仕事に熱心です。一度の世界大戦に中立を守りました。国民は、そのことをほりにしています。

(6) カイロ

カイロは、古くからエジプトの首府として栄えましたが、今は、アラブ連合国の首府となっています。黒い布で顔をおおつた女や、らくだを連れた隊商などを町の中で見受けます。

エジプトは、国土の大部分がさばくで、人は、ナイル川のほとりや、海岸近くにしか住んでいません。

エジプトは、古代に栄えた国で、カイロの近くに文明のあとが残っています。高さ百四十四メートルもあるピラミッドや、高さ一メートルのスフィンクスなど、むかしの文化を物語っています。エジプトには、地中海と紅海（こうかい）とを結ぶスエズ運河があります。こ

れは、一千八百六十九年に開通したもので、フランス人レセップス

の努力によるものです。西洋と東洋との交通に、たいそう役立っています。

(7) カルカッタ

カルカッタは、ガンジス川の川口にあって、インドでいちばん大きな商業都市です。

(新漢字 古)

(017.jpg 挿絵あり)

インド人は、むかしから、ガンジス川の水を神の水として、飲んだり、からだを清めたりしています。また、牛を神の使いとして大切にします。町の中をゆうゆうと牛が歩いているのは、おもしろい風景です。

インドは、仏教を始めたしやかが生まれた国です。また1・2・3というアラビア数字は、インド人の発明したものだということです。

インドは、一千八百五十八年から、イギリスの植民地になつて以來ましたが、一千九百四十年に独立国になりました。国民は、今、国のために力をつくしています。

(8) 北京(ペキン)

北京は、中国の古い都です。内城(じょう)と外城で囲んでいて、内城の中

央に美しい紫禁(しきん)城があります。

黄河(こうが)のほとりには、エジプトやバビロニアと共に、世界で最も早く文化の開けた所といわれています。

中国は、四千年むかしに始まつた国で、六億の人が住んでいます。あまり国が広いため、政治がいきどどかず、戦いが続きました。

新しい政府ができる、教育や、産業な

(新漢字 飲 清)

(018. jpg 挿絵あり)

どに力を入れたので、今は、国民の間に活気があふれています。

アフリカの父

プラタナスの落ち葉が、風にふき散らされているある朝であった。

けたたましいすずの音と共に配られた号外は、ヨーロッパの人々をびっくりさせた。

それは、『アフリカの父』といわれるデビッド＝リビング斯顿博士が、土人に殺されたというニュースであった。しかし、このニュースを正してみると、うたがわしい点があった。

イギリスの新聞記者ヘンリー＝スタンレーは、新聞社の命令を受けて、リビング斯顿の生死を確かめに、アフリカにわたった。

さて、スタンレーがたずねていくリビング斯顿とは、いつたい

どんな人であろうか。

リビングストンは、一千八百十二年、イギリスのブランタイヤという小さな町に生まれ、信教心の厚い父母に育てられた。家が貧しいので、

働きながら勉強した。二十才の時、キリスト教の伝道を一生の仕事にしようと決心して、神学と医学を学んだ。

ある日、かれは、アフリカから帰ったモファット博士に会い、みじめなアフリカ土人の話を聞いた。そして、アフリカこそ、自分が伝道に行く所だと考えた。一千八百四十一年、家族を連れてアフリカへわたつた。

当時のアフリカは、海岸から一歩おくにはいると、草原やみつ林であつた。そこには、もうじゅうや毒じやがいて、人は熱帯の病気におかされ、あわれなくらしをしていた。その上、人間を売買する悪い習慣があり、ぬすみ・争い・人殺しなどのたえ間が無かつた。リビングストンは、土人たちが、人間でりながら、けものと変



デビッド・リビングストン

わらうない生活をしているのを見て、深く同情した。かれは、人々の止めるのをもふり切つて、みつ林深くはいつていつた。

土人の家に住み、土人と同じものを食べて、かれうと親しんだ。こうして、病氣の手当をしてやり、働くことを教え、神の道をひろめた。

初めのうちは、容易になじまなかつた土人も、年月が過ぎるにつれて、リビングストンについていつた。かれの真心と、愛の行ないに感化されて、後には、かれを父のようにしたい敬つた。

(新漢字 厚 貧 学 慣 情 容 易

(020. jpg)

アフリカのザンジバル港に上陸したスタンレーは、リビングストンのあとを追つて、おく地へ出発した。いく日も草原とみつ林の中をとよつた後、ウジジという所で、やつとリビングストンに会つことができた。

大ぜいの土人の中に、白人がただひとり立つていた。やつれた顔しかし、目だけは力強くががやいていた。

「おお、あなたは……。」

「リビングストンです。」

「よく、『無事で……。』

ヨーロッパに伝えたされたニユースは、全てのいつわりであった。
その夜、ふたりはおしゃまで語り合つた。

「どんなにが、『苦勞なさいた』」とぞしよつ。

「いいえ、ちつとも、人の売り買いを止めさせ、神の道をひくめる
ことは、神からあだせられたわたしの仕事ですか？」

「いや、ヨーロッパに帰りますか。」

「わたしは帰りません。わたしは、愛する妻子のほねをアフリカに
うずめました。わたしもまた同じように、アフリカの土になるつ
もりです。」

スタンレーは、リビングストンの「いばに」強く心を打たれた。
かれは、新聞記者として来たのであつたが、そのままじまつてで
しこなり、リビングストンの仕事を助けた。

四年の後、スタンレーは帰国することになつた。

(新漢字 白 無 全 妻 帰)

(021. ジムの挿絵あり)

「では、 もう一つなんが、 スタンレー君。

わたしのことを、 時々は思ひ出すべからべ。」

「わすれぬのですか。わたしは、 必ずあなたの所に歸つて来ます。」

ふたりの田から、 なみだがあふれた。

○ ○ ○

それから一年余り、一千八百七十二年、チタンボットヒット人部落のやまつな小屋で、リビングストンは息を取つた。神にいのりをせひげながら……。

士人たちは、母を失つたおれの子のようになき悲しみだ。そしてかれらの手でリビングストンのなきがらを、はねまわしローダンまで運んだ。

リビングストンは、ウエストミンスター寺院に、手厚くまつぱりれた。

この時、スタンレーはないで別れの手を述べた。

「およつなら、わたしの父、リビン



ウェストミンスター寺院

グストン。さよなら、アフリカの父、リビングストン。」

スタンレーは、ふたたびアフリカにわたるため、準備を怠いでいる時、リビングストンの死を聞いたのであった。

(新漢字 落 準 備)

(022.jpg 挿絵あり)

文字のいろいろ

もし、文字が無かつたらどうでしょう。

むかし、文字が無かつた時代には、でき事にしろ、用事にしろ、あるいは伝説にしろ、すべて口づてでした。そのとき、記おく力のよい少數の人が、その役目を受け持つていました。

世界には、今でも、まだ文字を知らない種族があります。このような種族は、文化の進み方がずっとおくれています。

わたしたちは、考えを文字によつて、遠くの人伝えたり、後世の人に書き残す」ともできます。

大ぜいの人の書いたものを読み、それによつて、考えを新たに

する」ともれます。

文字は、わたしたちにとって、きわめて重要なものであり、文化を進め、生活を高める上に無くてはならないものです。

漢字

漢字は、むかし中国で作られた文字です。

山がそびえている形から、山の字。水の流れを表わした川の字。子・木・日・牛・鳥などのように、物の形をかたどつて、字を作りました。

これらを、「象形文字」といいます。

形の無いものは、ふ号のようなものを用いて作りました。たとえば、上、下といふ考えを表わすのに、横に線を引いて、その上や下に点をつけて表わし、それ

(新漢字 後 象)

(023.jpg 挿絵あり)

が後に、上・下といふ文字になりました。

「うしてできた文字を組み合わせて、新しい文字

を作りました。

木の向こうに、日が出るという意味で、木と日を重ねて、方角の東という字を作つたり、木のそばで、人が休むので、にんべんに木を書いて、休むという字を作つたりしました。

漢字には、前に習

つたように、音と訓（くん）

と、ふたとおりの読み

み方があります。

かな

漢字は、画が多く、書くのに手数がかかります。この手数をはぐくうとしてできたのが、かなです。

かんたんに書くために、まず、漢字の画の一部を

省略する」とを考えました。たとえば、仁の字のにんべんを略して、一という文字にし、保・加・多からホ・カ・タが作られました。これらが、かたかなといわれるものです。

また、かんたんに書くための方法として、漢字のぐずし書きを、いつそとかんたんにして、文字を作りました。それがひらがなです。

(新漢字 省 略 仁 保)

(024. .jpg 挿絵あり)

ローマ字

ローマ字のおおもとは、エジプト文字にあるといわれています。エジプト文字は、今から数千年前に、エジプトでできたものです。が、それがフェニキアに伝わって、形が少し変わり、フェニキア文字となりました。それから、ギリシアに伝わってギリシア文字となり、ローマに伝わってローマ字ができました。

初めのローマ字は、今の大文字のようなものでしたが、少し後になつて、小文字ができる、さらに筆写体の文字ができました。

一 早くなった通信

今から一千五百年ほど前、ベルシアとギリシアが、マラソンの野で戦い、ギリシアが大勝しました。この勝利を少しでも早く国民に知らせようと/orして、ひとりのギリシア兵が、マラソンの野から首都アテネまで、走って帰りました。やつとアテネに着いたかれは勝利を伝えると同時に、その場にたおれてしましました。

オリンピック競技の中のマラソンは、この話から起つたのです
が、これはまだ通信の起りともいえます。

むかしば、このギリシア兵のように、走って通信しました。文字
が発明されてからは、手紙を運びました。これがゆう便の始まり
で

(新漢字 便)

(025.jpg 挿絵あり)

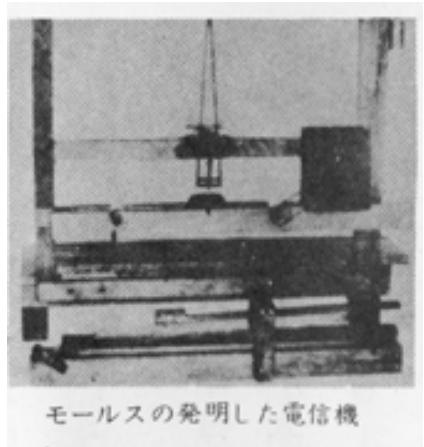
す。人が運ぶのでは時間がかかり、また遠くへは行かれませんでし
た。その後、交通機関が発達して、ゆう便の仕事は、非常に進歩し

今では世界中どこへでも、手紙がどこへようになりました。

通信には、ゆう便の外に、電信や電話が用いられます。これは電気を応用したもので、ゆう便とは、比べものにならないほど早く通信ができます。

電信を発明したのは、アメリカのモールスです。一千八百四十四年、ワシントンとバルチモアの間に、初めて電信が通じました。

電信は、ことばをふ号に変えて送るしかけになつていて、このふ号も、モールスが考え出しました。



モールスの発明した電信機

電話は、イギリス人ベルが、一千八百七十六年に発明しました。たいそう便利なもので、今では広く用いられていますが、最初は、だれひとり見向きもしませんでした。

アメリカ独立の百年記念博覽会にて、ベルは電話を出品しまし

た。

電話は、運よく「ブラジル皇帝ドン＝ペーロ一世」に止まりました。皇帝の力ぞえで、実用への道が開かれました。

電信と電話は、電線を使って通信するので、電線のつながっていない所では、通信ができません。この不便を無くしたのが、無線電信と無線電話です。

(026. .jpn 描絵あり)

無線電信は、一千八百九十七年、イタリア人のマルコーニが発明し、無線電話は、一千九百六年に、デンマークのパウルセンが発明しました。これらは、電波によって通信するものです。後に、真空管が発明され、それを利用するなどにより、たいそう発達して、ラジオが生まれました。

一 空ごとにニュース

人には、だれでも世の中のでき事を、知りたい、知らせたいとい

う気持ちがあります。新聞が発行され、ラジオやテレビが、放送されるのはそのためです。新聞・ラジオ・テレビのよつに、多くの人にニュースを伝える仕組みを、報道機関といいます。

報道機関の無かつたのは、広場などに人が集まり、たがいにでき事を知らせ合つていました。文字が発明されてから、新聞が作られるようになったました。

最初は、手書きの新聞で、「ま」「ま」書き写したものでした。手書きの新聞は、紀元前、まず中国で、次に西洋で始まりました。最初に、活字で印刷する」とを考え出したのは中国で、八世紀にはおきよつの本を印刷しています。

西洋では、十五世紀にドイツ人のグーテンベルグが、活字で本を印刷しました。

活字で印刷された新聞は、一千五百六十年代、イタリア政府の発行したのが最初だと
(新漢字 波 管 送)

(027. → ← ↗ 挿絵あり)

いわれています。十七世紀になると、各国で活字の新聞がさかんに発行されるようになりました。

ブラジルでは、一千八百八年に、最初の新聞ガゼッタ＝ド＝リオ

＝＝ジヤネイロが、ドン＝ジョン六世によつて発行されました。

ラジオは、無線電信、無線電話の発達したもので、一千九百二十年に、初めてアメリカに放送局ができました。今では、世界中の国に放送局があつて、一日中ニュースや音楽などを放送しています。

ニュースを聞くばかりでなく、その場面を見ることができるたらどんなにいいだろうとはだれでも思つゝことです。この望みをかなえてくれたのが、テレビです。テレビは、一千九百一十五年、イギリスのベアドという人が発明しました。テレビは、今、ものすごい勢いで広まっています。

報道の早さからいふと、新聞はラジオ

やテレビにはかないません。

ニュースを集めて原稿(こづ)を書き、活字を

拾い、版を作りて印刷するのと、新聞は時間がかかります。しかし、ラジオやテレビは電波によって報道するのですから、事件をその場から放送する、これができます。

(新漢字 勢 版 件)

(028. ジュウ 捷絵あり)

新聞は、文字を知らなければ読む、ができないが、ラジオやテレビは、などが分かっていれば聞く、ができます。

しかし、ラジオやテレビでは、自分

の聞きたかった見たいには、それが

放送されていて、ダイアルを回さ

なければなりません。また、同じ事を

聞き直す、見直す、などできません。

新聞は、自分の都合のよい時間



音楽を放送しているところ

して読む」とができます。

報道機関は、それぞれに長所があります。世の中の役に立っています。

学校新聞

一二学期になつて、みんなで学校新聞を作らうという話が起つた。

その目的について話し合つたら、いろいろ意見が出た。

日本語の勉強になるから。

社会の事をもつと学び、知識をゆたかにするため。

みんなで一つの仕事をするのは楽しいから。

文章がじょうずになるから。

おとなの人たちと親しくなれるから。

わたしたちの学校を、いつそう明るく楽しい所にするため。

それぞれ、ことばはちがつっていても、共通の目的があつた。それ

は、学校新聞の発行によって、学習をさらに進め、また、友だちど

(新漢字 期的)

(029. ～ 2019)

「うしの団結を、ますます強くしていこう」とある。

わたしたちは、協力することを約束し、やつれく仕事を始めた。新聞の名は、『なかよし新聞』として、月一回発行するところにした。初めてのことなので、先生に相談しなければ分からぬ事が多かつた。

係りと仕事は次のようにならめた。

総務係 全体の仕事をまとめ、へん集会などの記録をつける。

学校ニュース係 学校のでき事に関する記事を書く。
社会ニュース係 社会のでき事に関する記事を書く。

学習・作品係 作文・詩など学習に関するものを集め。
文楽係 わらい話や考え方などを集める。

やしき係 絵・カット・図表などを集める。

印刷係 印刷の仕事は全員でやり、印刷係はそのせこ

わたしたちが、中心になって仕事を進めるが、下級生にも手伝つ

ずをする。

てやる。」と、毎土曜日の午後、新聞委員会を開くことに決めた。

毎日の話題は、『なかよし新聞』に集まり、どの係りも張り切つているので、学校には楽しい空氣があふれた。

委員会を開いて、やつと記事ができ上がり、印刷にかかった。

先生の指導とみんなの協力で、ようやく第一号ができた。

みんなの顔は、完成の喜びにあふれ、思わず、

「なかよし新聞ばんざい。」

(新漢字 結 協 係 委 指 導)

(030. j-p-g)

とせうんだ。先生も

「おめでとう。みんながよく働くのに感心した。」

とほめてくださいた。

全校生徒と先生方にはもちろん、卒業生や青年会の人たちにも配つた。

次の土曜日に、新聞第一号の反省会を開いた。係りは全員、自分

が受け持つた仕事について、どんな意見が出るかと、心配しながらも、楽しみにして集まつた。

総む様の司会で、会は始められた。

詩や作文は、下級生のものをもつと多くする。

意見や希望をのべる欄を設ける。

父兄の方にも何か書いていただき。

絵やカットを多くして、紙面をにぎやかにする。

青年会のスポーツ記事を入れる。

下級生にも喜んで読んでもらえるよう、トピックをやさしくする。

第一号をすばらしいものにしようと、全員が、時間のたつのもわすれて、熱心に話し合つた。

(新漢字 反省司兄)

心に太陽を持て

心に太陽を持て。

ありしが るいじゆ

ふるせが ハシメハシ

天には 黒雲

地には 爭いがたえなかろひ

いのむ 心に太陽を持て。

くわびるに歌を持て

軽く ほがらかに。

自分のつとぬ、

自分のくわじに

よしや苦勞がたえながらくつじ、

いのむ くわびるに歌を持て。

苦しんでいる人、

なやんでいる人には、

「う、はげましてやれ。

「勇氣を失うな。

くちびるに歌を持て。

心に太陽を持て。」

(新漢字 蟲)

(032. .jpg 挿絵あり)

天体と地球



一 ロベルト君の家で

夕飯がすんでから、ロベルト君の家に行きました。ロベルト君は、ベランダに

天体望遠鏡をすえて、空を見ていました。その望遠鏡は、ロベルト

君のにいさんが、レンズだけ買つてきて作つたのだそです。

「のぞいて、月がはつきり見えるよ。」

ぼくがのぞいてみると、ロベルト君のにいさんが来ました。

「昭一君、よく見えるだらう。」

「ええ、月の表面はすぐりで、ぼくですね。」

肉眼で見るのとは、すっかりちがうので、ぼくはおどろきました。

ぼくたちは、望遠鏡でしばらく月や星を見たあと、にいさんから天体の話を聞きました。

月の表面の暗い部分を、日本の子どもたちは、「うみのもちつき」といいますが、あれは、高い山や深い谷なので、白く光つている部分は平原なのです。月には、水も草も木もありません。また、月の周囲には、空気が無く、雨も風もありません。ただ、日がかんかん照つて、いるだけの静かな世界です。

月は、それ自身回転しながら、三十日で地球を一回ります。

(新漢字 鏡 昭 眼 身)

(033.jpg)

月の面積は、三千八百万平方キロメートルで、アフリカ大陸ぐら

い

の大きさです。地球から月までのきよりは、三十八万四千キロメートルです。

月は地球から分かれ出たもので、地球もまた太陽から分かれ出了ものです。太陽をおじいさんとすれば、地球は子で、月は孫に当たるわけです。

太陽の子は、地球だけではありません。

外にも、水星・金星・火星・木星・土星・

天王星・海王星・めい王星があります。

これら地球の兄弟たちも、地球と同じよう、それ自身回転しながら、太陽の回りを回っています。

太陽は、一つの火の玉です。その大きさは、およそ地球の六十八万倍です。太陽は月くらいの大きさに見えますが、それは、ずっと遠くにあるからで、地球とのきよりは、大体一億五千万キロメートルです。

夜空に、銀のすなをまき散らしたような星のうち、きらきら光っているのは、太陽と同じ火の玉です。太陽よりも大きいのがたくさん

んあります、が、地球から非常に遠いので、小さく見えるのです。

地球から星へのきよりは、「光年」という単位で計ります。光は、一秒間に三十万キロメートル走ります。光が、この早さで一年間走り続けるきよりを、一光年といいます。

太陽の光は、七分間余りで地球に届きますが、地球にいちばん近い星といわれるシリウスでも、九光年のきよりにあります。

(新漢字 孫 星 計)

(034.jpg)

たいていの星は、なん十光年、なん百光年、遠いのになると、なん千光年、なん万光年のきよりにあります。それから考えて、このうちゅうがどんなに広いものが、想像もつかないほどです。

南の空に、美しい南十字星がかがやいていました。むかしから、南の方角を知る目当てになつてきました。

ぼくは、ロベルト君のにいさんにつづねました。
「南十字星は、なん光年ぐらいですか。」

「そうだね。十字の下にある「いちばん明るい星、あれはア星」というのだが、約百九光年といわれている。」

「遠いんですね。外の三つの星はなんという名ですか。」

「右がデ星 左がベ星 上のはガ星というんだよ。」

ロベルト君が言いました。

「じゃあ、デ星とア星との間にあるのはなんというの。」

「あれが、あれはエープ星というんだ。望遠鏡でア星を見て、「ぐらぐら」とおもしろいから。」

ロベルト君が、すぐのぞきました。

「おやおや、変だぞ、この星。」

「それは「重星」といつて、一一つの星がならんでいるんだよ。」

「ぼくたちは、夜がふけるのもわすれて、ロベルト君のにいさんから、めずらしい天体の話を聞きました。」

(新漢字 想像)

一 地球は回っている

『地球は平ひで、動かない。陸地は、海で取り囲まれている。

海の果てには高いかべがある。そのかべにせせられて、天
は屋根のよつと、世界をおおつてゐる。

太陽は昼、天をわたり、夜、地の下を通つて、元の所へ帰る。』

むかしの人は、このよつとを考えていました。

ルルが十六世紀になって、地球がまるいところじゃ、地球は
そ

れ自身回転しながら、太陽の回りを回つていの、ルルが分かりまし
た。

地球は、およそ二十億年のむかしに、太陽から分かれ出したものだ
といわれています。初めは、太陽と同じ火の玉でしたが、形がずつ
と小さいので、早く冷えて外側から固まつてしましました。

火の玉が固まつて岩になつていくとき、水分は空に上り、やがて
雨になつて地上にありました。こうして、陸と海ができるのです。

しかし、初めから、地球は、今のよつたな陸と海の形に決まつてい
たのではありません。なん回しても、陸が海になつたり、海が陸に

なつたりしました。まだ、なん度も氷に包まれた火や、かねがぬつた」とがありました。

地球の方は、今でも山々の火のかたまりで、その外側は厚い岩です。

土は、長い年月の間に、雨や風にやれられ、岩が粉になつたものです。

やがて、植物がはえ、動物がすむよう

(新漢字 元 冷 固 上 氷 粉

(036. → 冷 粉(縁あり)

になりました。そして、人類が現われたのは、一百万年ほど前のこと

だといわれています。

地球の面積は、五億一千万平方キロメートルです。この大きな地球が、一日に一回転しながら、一年で太陽の回りを一回りしているのです。

地球は、まだ月のように冷え切つてしません。しかし、いつかは、地球にも終わりが来て、生物はすめなくなるでしょう。それは



地球が冷え切つたとき、太陽が熱と光を出さなくなつたとき、もう一つは、大きな星といふつかつて、地球が「われたとき」、「の二つの場合を考える」とことができます。だが、「のうち」、「番目」の場合をのぞいて、まだ一億年や一億年では、地球の終わりは来ないということです。

コロンブスのたんけん

コロンブスのひきいる船隊が、スペインの港を出発したのは、一千四百九十二年八月三日のことであった。

隊長コロンブスの乗つた船はマリア号で、乗組員は四十人。あと「そつは、ピンタ号、乗組員二十八人。ニーナ号、乗組員二十四人であつた。

八月二十八日、船隊はカナリア群島に立ち寄つた。それは、出発一日目に、ピンタ号の

(037. ジュウヨウ 捷縫あり)

かじが折れたので、修理するためであった。

九月六日、修理を終えて出発した。

九月九日の夜、はるかな水平線に、火のふき上^フがるのを見た。水夫たちは、悪^クまの火だと^{シテ}立^タつてゐる^ル上^フがつた。フロレス島の活火山であつた。

九月十三日になると、じしゃくがくるい始めた。いつも、真北をさして^リいるはずのはり先^{ハリ}が、西にずれていた。

いく日か後であつた。コロンブスは船内を見回^ルて、船長室の前に来た。大ぜいの水夫たちが、つめかけていた。無言で目を瞑^メひ開^ケひやせていた。

「どうしたのだ、おまえたち。」

水夫たちは、身動きもしない。

「隊長、これはいつたいどうしたのです。」

「真北をやらないじしゃくなんて、あるものが。」

「海のまものが、船の方向をへる

わせて、おれたちを、海の底に

「アフリカの海岸まででいい。

「アフリカの海岸まででいい。

船を返してくれ。」

水夫たちは、口々にわめき立て

た。

(新漢字 修 夫 悪 言)



(038. .jp_05 描絵あり)

コロンブスは、水夫たちがおそろしい計画を立てていることを知った。

かれらの「言つ」とを聞かなければ、殺されるかも知れない。だが、コロンブスは言った。

「わたしは、決して船を返さない。」

「何つ。」

水夫たちは、コロンブスにつめ寄つた。

その時、とつ然とけび声が起つた。

「あつ、人だまだ。人だまだ。」

暗い空が、ぱつと明るくなつた。大きな火のかたまりが、マリア号の上へ落ちてくる。水夫たちは、頭をかかえてにげ出した。火のかたまりは、船すれすれに海中に落ちた。それは流星であつた。スペインを出発して四十五日過ぎた。

行つても行つても、海と雲ばかりであつた。

四十七日目の九月十八日、朝、たくさんのはく鳥を見た。

「おお、鳥が飛んでいる。陸地は近い。」

コロンブスは、望遠鏡を目からはなさなかつた。

水夫たちの顔も明るくなつた。

四十八日目、陸地はまだ見えない。

四十九・五十・五十一日目、雲と海ばかり。

五十二日・五十三日目、やつぱり同じこと。

五十四日、先頭のピンタ号から、島が見える

(039. → 38 挿絵あり)

と信号で知らされた。コロンブスは、マストの上にかけ上がった。
南西方に、シガリララルヘンの黒いものが見える。コロンブスは
やせんだ。

「島だ、島だ。祝ほうを打て。」

マリア号が打つ大ほうの音が、
海上に響いた。

コロンブスは、いまいまし
くてならなかつた。祝ほうま
でうつて喜んだのに、島では
なかつた。水平線に見えた雲
であつた。

水夫たちは、まだおこり出しだ。不平ばかり言つようになつた。
水も、食料も少なくなつてしまつた。コロンブスの心は、次第に暗くな
つた。

十月七日、二一九号が大ほうをうつた。

今度も、雲を島と見まちがえたのだった。

でも、水夫たちはあまりはらを立てなかつた。あおびやしづなどが、海上を飛んでいたからである。うたがいもなく、陸地の近いしるしであつた。

一、「三日過ぎて、雑草と赤いいちご」の実が流れてきた。コロンブスは、いちごを手のひらに乗せてじつと見た。

(新漢字 祝)

(040. .jpg 描絵あり)

そして、銅像のように立つたまま見張りを続けた。

日がくれた。やがて真夜中も過ぎた。

コロンブスは、いのるような気持ちで、

水平線を見つめていた。

水平線に、小さな火が見えた。はつとし

た。心を静めてよく見直した。

先頭のピントタ号の大ほうが、鳴りひびいた。今度こそ、まちがいなく陸地であった。

スペインを出発してから七十一日目、それは一千四百九十二年十月十一日、午前二時のことであつた。

「ほんざい。」

三つの船から、喜びの声があらしのようにわき上がつた。

やがて、夜が明けた。

すぐ目の前に、青いやしの林と、美しいすなはまがあった。

土人たちが、泳いだり、すなはまをかけまわつたりしていた。

たんけん隊の人々は、コロンブスを

先頭に、スペインの国旗をひるがえして上陸した。

コロンブスは、この島をサン＝サルバドル島と名付けた。



(041. 「ま」 アンダーラインあり)

「」と「」を分ける

本を読む。花が咲く。飯を食べる。犬と遊ぶ。

右の文中、「読む・咲く・食べる・遊ぶなどの」「」と「」は、物事の働きやありさまを表わし、その「」によつて、その「」と「」が変わります。「」と「」を「動詞」とよびます。「読む」について、いうと、

読【ま】ない 読【み】ます 読【む】 読【め】 読【も】う

読【ん】だ

「」のように、「読」に「」と「」と「」が「まみむめも」と「」のように、五十音図表の「マ」行を順に規則正しく変わつていいくのに気が付くでしょう。これが、動詞の活用です。

おもしろい本を読む。 【赤い】花が咲く。

おいしい飯を食べる。 小さい犬と遊ぶ。

これらの、すじを引いた「」と「」は、下に来る「本・花・飯・犬」

などの性質や様子を表わしています。そして、これも、その「～ば
じりが、「赤【あか】 赤【べ】 赤【かつ】 た 赤【い】 赤【け
れ】 ば」と 動詞

とはちがいますが、活用します。「～ば」の活用形をもつ「～ばを
「形容詞」といいます。形容詞には、この外に、「暑い・楽しい・長
い・

美しい・広い・やせしい」などがあります。

動詞・形容詞とちがい、「～ば」の活用しない「～ば」があります。
す。「本・花・～」飯・犬」などが、そうです。「これらは、「名詞」
といつて、物事の名を表わす「～ば」です。「海・町・家・飛行機・
勇気・時間・花子・一・二・三・五人」などは、みな名詞のなかま
(新漢字 詞 性 質)

(042. ～ば) □ アンダーラインあり。左 p. 6 横書き)

です。「読む」は動詞ですが、その読み方にもいろいろあります。

【ゆづく】 読む。【ぐんぐん】 読む。【たくさん】 読む。

「赤い」は形容詞ですが、この赤いにもいろいろあります。

【かなり】 赤い。【ずいぶん】 赤い。【ちょうど】 赤い。

すじの引いてある「ことばのよつた」、動詞や形容詞について、その様子を表わす「ことばを「副詞」といいます。

これらの外にまだ「助動詞・助詞・接続詞・連体詞・感動詞・形容動詞」など、いろいろのながまがありますが、これらの「ことばがつまく組み合はせられる」と、それらの「ことばが、おだがいに助け合ひ、働き合ひて、ことがらゆ様子が、正しくゆたかに述べられる」とになるのです。

微 (ひ) 生物と細きん学者

1 微生物

目に見えないほどの小さな生き物を、微生物といいます。

微生物は、土の中にも、水の中にも、わたしたちのからだの中にあります。空気の中にもいて、わたしたちは、毎日たくさん微生物を、すつたりはいたりしているのです。

微生物の研究は、けん微鏡(きょう)が発明されたから、ますますさかんに

なりました。物がくさるのも、いちいちな酒ができるのも、微生物の働きによるのです。人間や動植物の病気は、たいてい、微生物によって起りますことがわかりました。

近早、微生物から薬を作る」とも発明されています。

(新漢字 副 酒)

(043. jpg 挿絵あり。横書き)

「のよつて、微(び)生物は、わたしたちの生活と、深いつながりがあります。

微生物を大きく分けると、かび・けうぼ・

細きん・原虫の4種類になります。

かびの多くは、物をくさらせたり、病気のものになつたりして、わたしたちに害をします。しかし、みそ・しょうゆ・酒などを作るのに必要なこうじかびや、ペニシリンを作るかびなど、役に立つものもたくさんあります。

「うばは、パンをかへりませたら、こゝの物や果実から酒を作るのに無くてはならないものです。

細きんには、みそ・しょうゆ・酒・つけ物・チーズなどの味をよくするものや、植物を育てるものなどがありますが、害をするものもなくありません。チフス・コレラ・せきり・ジフテリア・かぜ・はしか・けつかくなどの伝せん病や、その他 人間や家畜への病気も ほとんど細きんによつて起つされます。

物がくさくなるのも細きんのしわざです。



原虫の中には、みじんこ・プランクトンのよつて、目に見えるものや、目に見えないくらい小さいものもいます。

原虫というのは、小さな虫で、原生動物ともいわれています。

ブラジルで、よく知られているマラリア・シャガス病・アミーバ

せきり・フェリダ＝ブラバなどは、その原虫が、からだにはいつて
起^るす病氣です。

(新漢字 細味)

(044. jpg 挿絵あり。横書き)

このように、微(び)生物の中には、害になるものが多いのですが、わ

たしたちの目に見えないので、それを防ぐことは、なんなんです。それで、わたしたちは、食べ物や飲み物に、常に気をつけなければなりません。からだをじょう夫にしておけば、悪い微生物がはいつても、それに勝つことができます。

一度、はしかになると、しづらへの間、はしかになりません。このよ^{うな}いことを、めんざといいます。このことから考^{え出}したものに、ワクチンがあり、これをジフテリア・チフス・ペスト・きよう犬病などの予防に用います。

微生物は、わたしたちの役に立つたり、害になつたりして、生きている小さな生き物です。

2 オズワルド＝クルーズ

今では、世界の観光都市といわれるリオ＝デ＝ジヤネイロも、1900年ころは、さびしい港町に過ぎなかつた。それは、黄（おう）熱病・マラリア・ペストなどがばびこつていたからである。

当時、ブラジルでは、伝せん病が流行して、死ぬ人が多かつた。特に海岸地方ははなはだしく、リオ＝デ＝ジヤネイロなどでは、年々 4000人近くも死んだ。

政府は、1日も早く伝せん病をなくしたいと考え、パリのパストウル研究所にたのんで、細きん学者に来てもらひ、「ことにした。
研究所からは、

（新漢字 常 犬 観）

（045.jpg 挿絵あり。横書き）

「ブラジル人のわかい学者、オズワルド＝クルーズを帰国させよ。」
といつてきた。

ヨーロッパの有名な学者が来てくれる」と予想していた政府

は、

この手紙を見ておどろいた。ブラジル人の、名も知られていないわかい学者 オズワルド＝クルースとは、いったいどんな人物だろう。人々は、首をかしげた。

オズワルド＝ゴンサルベス＝クルースは、1872年、サン＝パウロ州のサン＝ルイス＝ド＝パライチンガという、小さな町に生まれた。リオ＝デ＝ジャネイロの医科大学を卒業して、細菌学を研究するため、ヨーロッパにわたつた。ペストゥル研究所員となつて研究にはげみ、すぐれた学者になつた。

フランスから帰つてきたかれは、リオ＝デ＝ジャネイロの二つ外マンギニヨスに研究所を設け、すぐ

ぐに伝せん病退治に取りかかつた。

黄（おう）熱病やマラリアは、かのなか

だちによつて伝せんし、ペストは、

ねずみが細きんをまき散らすので

ある。かれは、かとねずみを退治

する」とから始めた。町中のそつ

じと消毒をしてきたない水たまりなど、かたはしからつめ立てたり、



オズワルド＝クルース

かわからしたりした。

当時の市民たちは、衛生の知識に疎しかったので、かれのきびしいやり方を見て、悪口を言つたり、中にはじやまをする者もいた。しかし、そんなことには少しもひるまず、仕事を進めていった。

(新漢字 消 衛)

(046. .jpg 横書き)

1年過ぎ、2年過ぎ、3年目になると、伝せん病で死ぬ人は、目に見えて少なくなった。

これを見て、市民たちは初めてオズワルド＝クルースの力をみとめた。悪口やあざわらいの声は、感謝（しゃ）と賛賛（しようさん）のことばに変わった。

市民が、進んでかれの仕事に協力したので、町は見ちがえるように清潔になった。こうして、ついにリオ＝デ＝ジヤネイロの伝せん病は、完全に退治された。

その後、サン・トス・バイア・レシフェなどに、はびこっていた伝せん病も、次々と退治された。

オズワルド＝クルースは、1917年、45才でなくなつた。か

れが國家につくした功績を永遠に記念するため、マンギニヨス研究所は、オズワルド＝クルース研究所と改められた。

3 カルロス＝シャガス

ミナス＝ゼライス州の北部、ベーリヤス川のほとりに、ラセンセという小さな村がある。さびしい村であったが、急に、にぎやかになつた。それは、近くまで、鉄道の工事が進んできたからである。工夫たちは、川ばたに小屋を建てて住み、毎日、元気よく工事場に通つていた。

1907年、政府は、ミナス＝ゼライス州のピラポーラまで、セントラル鉄道をのばす工事を起した。

工事は進んで、ベーリヤス川の谷間にさしかかった。ところが、こゝまで来て工事はぱつたり止まってしまった。マラリアが発生して、工夫たちが、ばたばたたおれ始めたからであった。

(新漢字 永 遠 改 通)

政府は、マンギニヨス研究所に、マラリアを退治する」とを命じた。研究所では、すぐ1団の所員を送つたが、その団長になつてラセンセ村に来たのが、シャガスであつた。

シャガスは、工夫たちが病氣でねてゐる小屋を回つて、手当てをした。やがて、マラリアは退治され、鉄道の工事は、ふたたび活発に進むようになつた。

シャガスは、ラセンセ村に来て間もなく、住民たちが原因の分からぬ風土病で、こまつてゐるのを知つた。

ある日、シャガスは、住民の家で、バルベイロとよばれる、虫をたくさん見付けた。細きん学者のかれば、このバルベイロをけん微鏡で調べてみた。そして、これまで見たこともない原虫を発見した。

その後、シャガスは、熱心に研究を続けて、この原虫が、住民をこまらせている風土病の病原虫、トリパノソーマであることをつき止めた。

カルロス＝リベイロ＝ジュスチニアーノ＝ダス＝シャガスは、1879年、ミナス＝ゼライス州のオリベイラで生まれた。

リオ＝デ＝ジャネイロの医科大学を卒業して後、マンギニョス研究所員になつた。

かれが、トリペノソーマによる風土病の研究を発表したのは、1909年のことであつた。

当時の医学者たちは、わかつて名も無い

(新漢字 因)

(048. jpg 挿絵あり。右 jpg 横書き)

かれの研究などには、なんのねうちもみとめなかつた。

しかし、この風土病は、ミナス＝ゼライス州ばかりでなく、ブラジル全土にあつて、多くの人を苦しめていることが、明らかにならた。

かれの研究は、急に注目され、かれの名は、多くの人に知られるようになつた。そして、この風土病は、病原をつき止め、予防法を発見したかれの名を取つて、シャガス病とよばれている。

シャガスは、その後も多くのすぐれた研究を発表したが、1934年、55才でなくなつた。

かれが、トリ・パノソーマを研究して、多くの人を救つた」とは、いつまでもわれられないであろう。

四 野口英世（ひでよ）

福島（ふくしま）県に、翁島（おきなじま）といいつづけい村がありました。一千八百七十五年、野口英世は、この村の貧しい農家に生まれ、小さいころの名を

清作（せいさく）といいました。

清作が、また「才の時の」ことです。おかあさんは、清作をいろいろのそばで遊ばせながら、「飯のしたくをしていました。なべをいろりにかけたまま、野菜を取りに、うらの畑へ行きました。

その時、清作のはげしいなき声が聞こえてきました。おかあさんはおどろいて、飛んで帰りました。見ると、清作はいろ

りの中にころげ落ち、左の手を火の中につりこんでいました。急いでたき上げましたが、清作（せいわく）の手は、赤く焼けただれていきました。

おかあさんは、夜もねないでかいほうしました。けれども、清作の五本の指はぐつぐつして、まるで木のいのこのよくなつてしまいました。

やがて、清作は村の小学校に入学しました。学校の成績はいつも一番で、外の子どもはかないませんでした。村の子どもたちは、清作の手を見て、「てんぼうの清作、てんぼうの野口」と言つて、はやしたてましたが、どんなにからかわれても、清作はじつとがまんしていました。

近くの町に、小林栄（さかえ）という先生がいました。小林先生は、清作の

すばらしい成績を知っていました。それで、清作が小学校を卒業すると、おかあさんと相談して、清作（せいわく）を町の小学校の高等科に通わせ

ることになりました。小林先生は、清作の手を直してやりたいと思い

町の医者に手術をたのみました。

この手術のおかげで、十年以上も、木の「ざ」のようになつていて、清作の手は直りました。五本の指は、一本一本自由に動くようになりました。清作とおかあさんの喜びは、非常なものでした。

この時、清作は決心しました。「そうだ。ぼくも医者になろう。そして、苦しんでいる人々を助けよう。」清作は、目をかがやかせ、直った手をにぎりしめました。

高等科を卒業した清作は、東京に出ました。医者になるため、働きながら、一心に勉強を続けました。医者になつた清作は、名を英（ひで）世（よ）と改め、病院や研究所につとめて、次々に研究を発表しました。

(050. .jpg)

この研究は、アメリカの学者にみとめられ、二十五才の時、アメリカにわたり、いつそう研究を進める」となりました。

アメリカでも、すぐれた研究を多く発表して、野口英世（ひでよ）の名は、世界中に知られました。

りっぱな医学者になつた英世は、十六年ぶりに帰国しました。

医学の話をたのまれて、方々へ行きましたが、いそがしい中でもひまを見ては、母や小林先生を、名所見物に案内しました。

ふたたびアメリカに行つた英世は、さらに研究にはげみました。ある年黄（おう）熱病を退治するため、招かれてエクアドルに行きました。

エクアドルに半年ほどいましたが、その間、一心に黄熱病の研究をしました。そして、ついに、この病気のもとになる細きんを発見しました。英世のおかげで、黄熱病から救われたエクアドルの人々は、英世を命の恩人と敬い、心から感謝（しや）しました。

その後、英世はアフリカに行きました。アフリカでも、黄（おう）熱病で

多くの人が苦しんでいました。英世は、その黄熱病を無くして、大人を救おうと決心しました。

ところが、英世自身も、この病気にかかつて、一千九百一十八年五十一才でなくなりました。

世界中の人には、英世の死をおしみ悲しみました。

医学の上に数々の功績を残し、人類のためにつくした野口英世の

名は、いつまでも人々の心の中にかがやく」とでしょう。

(新漢字 招 数)

(051. jpg)

十一月三日

雨ニモマケズ

宮 沢 賢 治

雨ニモマケズ

風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

ジョウ夫ナカラダヲモチ

欲ハナク

決シティカラズ

イツモシズカニワラッテイル

一日ニゲン米四合ト

ミソト少シノ野菜ヲタベ

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジョウニ入レズニ

ヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

野原ノマツノ林ノカゲノ

小サナカヤブキノ小屋ニイテ

東ニ病氣ノコドモアレバ

行ツテカン病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ

行ツテソノイネノタバヲ負イ

(新漢字 欲 米)

(052. .jpg 描絵あり)

南ニ死ニソウナ人アレバ

行ツテコワガラナクテモイイトイイ

北ニケンカヤソショウガアレバ

ツマラナイカラヤメロトイイ

ヒデリノトキハナミグヲナガシ

サムサノナツハオロオロアルキ

ミンナニデクノボウトヨバレ

ホメラレモセズ

クニモサレズ

ソウイウモノニ

ワタシハナリタイ

美しい国立公園

わたしたちの国には、風景の美しい所やおもしろい所、めずらしい動植物の集まっている所などが、方々にあります。そのうち、四か所は国立公園になっています。

イグアスー国立公園は、一千九百三十六

年、国立公園に指定されました。

ブラジルと巴拉グアイ、アルゼンチンの国境を流れるパラナ川にあるイグアスーのたきを中心とする公園です。



イグアスー 国立公園

「ことで、世界に名を知られています。

(053. .jpg 挿絵あり)

大小無数のたきがあり、中でも有名なのは、ベンジヤミン＝コンスタンティ・デオドーロ・フロリアーノ・ガルガンタ＝ド＝ジアボなど

で、たきの高さは、約八十メートルが最高といわれています。

雨期になると、一千三百メートルの川ばぽいっぽいのたきとなります。たきの付近のみつ林と共に、そのそう大なながめは、ことばでいい表わせないほどです。

イタチアイア国立公園は一千九百三十七

年、国立公園に指定されました。

マンチケーラ山脈の一部で、リオ＝デ

ジャネイロ州とミナス＝ゼライス川の境に

あります。

高さ二千三百メートルの、アグリヤス

ネグラスを初め、プラタレイラ・コウト・ペードラ＝メニーナなど
の岩山が、形おもしろくそびえています。この岩山の間を、カンポ

ベロ川が流れ、いたる所にせやぶちを作り、たきになつて美
しきをしています。山のふもとは、自然のままの林に囲まれ、

めずらしい高山植物があります。

セーラ＝ドス＝オルゴンスが国立公園に
指定されたのは、一千九百三十九年です。

海岸山脈の一部で、ペトロポリスとテレ
ゾポリスの間にあって、デード＝テ＝デウ
ス・カステロス・エスカラブラードなどの
高い岩山が、かたをならべています。中で
も、デード＝テ＝デウスは有名です。ふも

(新漢字付境)

(054.jpg 挿絵あり)

とは美しい林で、川の流れは清く、きれいなたのもあります。カン
ポ＝ダス＝アンタスに登ると、リオ＝デ＝ジャネイロの市がいや、
グアナバラわんの美しいけしきが、一目に見えます。

パウロ＝アフォンソ国立公園は、サン＝

フランシスコ川の上流、バイア州・アラゴ

アス州・ペルナンブコ州の境にあります。

パウロ＝アフォンソのたきと、その下流にある島々の美しさは、広く知られています。

みどりの木々におおわれた小島の間を、

サン＝フランシスコ州は、しぶきを上げて流れています。

ここは、一千九百四十八年に、国立公園に指定されました。

今の人のからし

一 しょく業のいろいろ

大むかしの人は、必要な物を自分で集め、自分で作っていました。そのうち、暮らし方が進み、集団を作つて住むよくなつてからは手分けをして、物を集め、作るよつとなつました。これが分業の始まりです。

た。世の中が進歩するにつれて、分業はいよいよせかんになりました。

今の世の中で、しょく業を分けると、農業・工業・水産業・林業・商業・自由しょく業などになります。「れをもつと細かく分ける」と約二万五千種にもなるといつゝことです。

農業は、土地を利用して物を作り出す仕事です。コーヒーや綿を（新漢字　登　細）

(055. jpg)

植え、米や野菜を作り、家畜を養います。こうして生活する人を、農業者といいます。

工業は、道具を使って物を作り出す仕事です。れんがを作るようなかんたんな仕事も、とけいやラジオなどを作る細かい仕事も、自動車・汽船などを作る大仕かけの仕事も、みな工業です。

水産業は、魚や貝などを取る仕事で、林業は、木材に関する仕事です。

このように、人間は分業で、物を集め、物を作ります。しかし、各自の必要な物を交かんし合つのは、手数がかかつて不便です。そ

「」で、物を買つたり売つたりする仕事が、しょく業として生まれました。これを商業といいます。

その外、医者・教師・牧師などの仕事は、自由しょく業といわれます。

文化は、たえず進んでいます。物を作り、それを交かんし、消費するといった生活を、うまく成り立たせるために、しょく業はますます細かく分かれていこうでしょう。

一 貸へいの役目

人間の暮らし方が進んで、物と物と、交かんし合うのが、不便になつてきました。そこで、何とでも交かんできるものを考へ出しました。それを貸へいといいます。

今は、紙や金ぞくで作った貸へいを用いていますが、むかしさ、品物を貸へいとして用いました。始めは、「」物・布・家ちくななどを用い、後に、めずらしい石・貝・金ぞくなどを用いました。

(新漢字 費 成 貸)

(056.jpg 挿絵あり)

そのうちに、金が貸へいとして、最も適している」と
が分かりました。

今、世界の国々では、金が貸へいの役目をしていま
す。たとえば、金三・三グラムが一千クルゼイロとし
ます。もし、一つ一足を一千クルゼイロとするべく
つ一足は、金三・三グラムとねだんが同じだといふ
とになります。「のように、物は金の重さと比べて、
そのねだんが決められます。

しかし、物の売買に、金を用いるのは不便なので、金の身代わり
として、紙の貨へいが用いられるようになりました。これを紙へい
といいます。ふつう、紙へいは国内だけで用いられ、外国では通用
しません。外国と物を売買する場合には、今でも金が用いられます。

三 物のねだん

物には、ねだんがついています。それは、その物を人が欲しがる
からです。

(二) 物には、ねだんの高い物と、安い物があります。めずらしい

よく役に立つ物は、ねだんが高く、その反対の物は安いのです。しかし、めずらしい物でも、欲しがる人が少なければ、ねだんが安くになります。また、よく役に立つ物でも、すぐ手にはいる物は安いのです。

「」のように、めずらしいとか、役に立つとかいうことだけでは、ねだんが決められません。そこで、今ではその物を作るのに、どれだけの材料と、人手と、時間がかかったかというところをもとにして

(新漢字 欲)

(057. .jpg)

物のねだんが決められます。

メルカードで、トマテを買つたとします。きのうは、一キロが一十クルゼイロでした。そのトマテが、きょうは、一キロ三十九クルゼイロになつていました。物が高くなつたり、安くなつたりするのはなぜでしょう。

それは、その物の多い少ないと、それを買う人の多い少ないとによるのです。つまり、同じ品物が多くて、買う人が少ない場合には、ねだんが安くなります。反対に、同じ品物が少なくて、買う人が多

い場合には高くなるのです。

同じ一キロのトマテでも、きのうより、きょうの方が高かつたというのは、きのうはトマテが多くて、買う人が少なく、きょうはトマテが少なくて、買う人が多かつたからです。

このように、同じものでも、場合によつて高くなつたり、安くなつたりするのです。

四 社会の進歩

わたしたちは、家族の中のひとりとしてこの世に生まれ、まず、父母兄弟を知ります。次に、となり近所の人々を覚え、学校では、多くの友だちや先生とつながりを持ちます。それから、いよいよよく業につくと、数え切れないほど大せいの人々と、かかわりを持つた生活をするようになります。

それは、山の上に落ちた雨のひとしづくが、谷川にはいり、小川を流れ、大川を通つて、海に出るのとよく似ています。この水の旅のような人間の歩みを、社会生活といいます。この社会生活の、社

会というのは、なんでしょうか。

それは、ひとりひとりが、しあわせになるため、力を合わせて生活するグループのことです。家族というグループ。学校・村・国などというグループ。なんと、グループの多いことでしょう。それはみな一つの社会です。そして、この社会が集まり、重なり合つて世の中といふ大きな社会を作つているのです。だから、どの社会ともぞくしていな人は、ひとりもありません。人はだれでも、多くの社会にぞくして、生活しているのです。

一つの社会には、必ずリーダーができます。リーダーといふのは、その社会の先頭に立つて働く人のことです。たとえば、この「子ども五人のグループ」があります。その中で、だれよりもすかれる子どもができます。それは、その子どもが、グループのためになる」とや、ひとりひとりの喜び「ことを、だれよりもよく考へ出すからです。そこで、いつしょに何かするときは、その子どもの「喜ぶ通り」にします。そうなると、その子どもは、グループのリーダーといえます。「のように、リーダーのいない社会といふものはありません。学校では校長、市では市長、国では大統領がリーダーです。

リーダーは、その社会が進歩するように、また、多くの人のためになるようになると考へ、何事でも先頭に立つてします。また、一つの社会にぞくしている人は、自分勝手な行動をしてはなりません。自分勝手な行動は、いつの場合にも、社会の進歩をとまどげるものです。

五 科学と技術

(059.jpg)

むかしの人は、ふしきな事に出会うと、それは神か悪まのしわざだと思いました。そして、敬つたりおそれたりするだけでした。たとえば、かみなりが鳴ると、神がおこっていると思つたり、おにがたいこをたたいているといつたりしておそれました。

今の人は、かみなりが鳴つても、ふしきに思つたり、むやみにおそれたりはしません。それは、かみなりが電気の作用である、「いや電気の性質を知つているからです。

物事の事実を確かめ、原因をさぐり、性質を見きわめる學問を科學といいます。科学は、人間の心の働きを研究する精神科学と、社

会に起る事を調べる社会科学と、自然を観察する自然科学の、三つに分けられます。

科学の発達は、技術を進歩させます。技術というのは、科学を取り入れて、物をうまく作り上げるうで前のことです。たとえば、土の性質とか、その上に適する作物を知ることは科学ですが、その知識によって、良い作物をしゅうかくするのは技術です。電気の性質を利用して、ラジオやテレビが作られているのは、技術が進歩しているからです。

科学は技術を進歩させ、進歩した技術は社会を発展させて、今日の文明を築きました。特に十四世紀から後、レオナルド・ダ・ビンチ・ガリレオ・ガレリイ・アイザック・ニュートンなど、いだな科学者が現われて、多くの発明や発見をして、社会の進歩につくしました。

た。さらに、十九世紀から、科学はめざましく発達しました。世界の科学者は、電気や原子力の研究をし、科学と技術を進めて、人間を幸福にしてきました。

(新漢字 作 良)

六 みんなで楽しむ美術

人は、だれでも美しい物が好きです。美しい物を見たり聞いたりするのは楽しいものです。人は、自然のままの美しさを楽しむばかりでなく、美しいものを作る事に、喜びを感じます。

人が作り出す美しいものに、音楽・文芸・えんげき・美術などがあって、これを美術といいます。この中の

美術について、考えてみましょう。

美術というのは、絵画・ちようく・建
築・工芸などのことです。

それらの美術は、どんなふうに発達してきたのでしょうか。

今でも、石のやじり、土で作ったつぼ、銅で作った刀などが、ほり出されることがあり、その道具には、も様や動植物や人などの形がほり付けてあります。これらは、大むかしの

人が、美しい物を求めてはり付けたもので、やはり美術といつゝことができます。

時代と共に、美術は進歩しました。木や石で、美しい家を建てたり、かべや柱に絵をかいたり、ちようじぐをしたりしました。また、神のすがたや動物の形などを、木や石や金でくで作りました。

美術は、長い間、しゅう教と結び付き、身

(新漢字 絵)



(061. jpg 挿絵あり)

分の高い人たちの間で、栄えてきました。それは、むかしの寺や宮でんや国王の墓などが、大きくて美しく、絵やちようじぐに、神や王などのすがたを写したものが多いのでも分かります。

さらに、時代が進んで、美術はいっぱいの人々の間にひろまりました。

建物は、公会堂・図書館・学校・

博物館・げき場などに、大きく美

しい物が見られます。

絵やちよついへなどの美術品も、
展らん会場になりべられて、みんな
でそれを見て、楽しむ時代にな
つてきました。

わかりやすい表現を

一 あいまいな表現は避けよう。

「昨日は、買い物に行つていませんでした。」

「」の言い方では、買い物に行かなかつたのか、買い物に行つたか
ら家にいなかつた」となのか、はつきりしない。

「昨日は、買い物に、行つていませんでした。」

「昨日は、買い物に行つて、いませんでした。」

とすれば、はつきりする。

「んな、わらい話がある。」

ふたりの男が、よその家のかきをぬすみに行つた。ひとりが、

(062. ジュウ)

木に登つてかきを落とした。下の男は、それをふくみに入れていた。下の男は、あやまつてそばのみぞに落ちた。

「あ、落ちてしまつた。」

「しつ、だまつて拾え。」

「みぞに落ちたんだよ。」

「そんのは、きたないから拾うな。」

「のねりふ話は、じるせの足りない」とを表わしている。わたしたちは、言いたいじるせはのめりせるために、あいまいな表現に、気を付けなければならぬ。

一 なるべく文章を短く書くべ。

「去年の夏休みに、しんせきの者といつしょに、サントスへ行つたとき」、朝早く海岸へ行つて見付けた貝は、とても美しかつた。」

これは、すじの通つた文である。しかし、「の文で主になる」とは、貝が美しかつた」とである。しかし、文が長いために、読んですつきりしない。

「去年の夏休みに、しんせきの者といつしょに、サントスへ行った。
朝早く、海岸へ行って見付けた貝は、とても美しかった。」

とすれば、すつきりする。

文章を短くすると、「言いたい」とをまちがえることが少ないし、読む人によく分かる。長くすると、と中で話のすじが変わったり、内容が「なんらんする」とが多い。なるべく短く書くことが大切である。

三 「」とばを選ぼう。

「あぶない。ぞいた、ぞいた。」

「ぞいた、ぞいた。あぶない。」

(063. .jpn.g)

自転車に乗つた人が、前を歩く人によびかける「」とばとして、どちらが、させまた表現であろうか。

「あの人は、目がぱっちりとしていて、色白で、せいはすくりとしているし、上品で、よく勉強ができる。」
と、ある人が言った。外の人が、同じ人のことを

と、ある人が言った。外の人が、同じ人のことを

「あの人は、どんぐり田で、青白い顔色をして、ひょろひょろして
いる。する」ことがばかりでないで、勉強ばかりする虫取り虫だ。」

と言つた。

「とばの選び方によつて、その人の心や考えが分かるものである。

せしまつた気持ちを表わすには、その気持ちをいちばんよく表わす」とばを先に書く。相手を敬つてはいるのと、やせすんではいるのとでは、選ばれとばがあちがつてくる

「とばの選び方に注意しないと、自分の気持ちをはつきり表現することができない。

四 正しいだん落で書く。

ふつう、文は内容にしたがつて、いくつかのだん落に分けられて
いる。

一つのだん落は、大体一まいまりの考えを表わしている。一まと
まりの考え方で、一つのだん落を作るように書く。

一つ一つはつきりしただん落が積み重ねられれば、全体の文は非
常にはつきりしたものになる。

五 その他。

わかりやすい文を書くために、句どうしを適当に用いたり、文のつなぎに注意したりすることは、いつまでもない。

(新漢字 積)

(064. .jpg 挿絵あり)

コーヒー物語

わたしたちの国は、コーヒーの国です。

かおりの高いまつ白な花。ほう石を運ねたような赤い実。
おかげからおかへと続くゆう大なコーヒー園のながめ。それ
らは、わたしたちに最も親しいものです。

このコーヒーは、どこが原産地なのでしょう。

アフリカの方に、エチオピアという国があります。

コーヒーの木は、ずっとむかしから、この国の高原に自然
に生えていました。エチオピアの人は、いつからともなく
その実を薬として用いたり、飲み物にしたりしていました。

十五世紀の中盤、コーヒーの木は、紅海(こうかい)をわたってアラビアのイエーメンに移りました。ここでコーヒーの木は、初めてさいばいされ、その実は、ヨーロッパに売り出されるようになりました。コーヒーの味とかおりのすばらしさは広く知られ、飲む人がだんだん多くなりました。

それから長い間コーヒーは、アラビアだけで生産されました。それで、コーヒーの原産地は、アラビアだと思われた」ともありました。

十七世紀の末になって、オランダが、この売れ行きの良いコーヒーに目をつけました。オランダは、植民地のジャワにコーヒーのさいばいを始めました。

ジャワで取れた最初のコーヒーの実と、なん本かのなえが

オランダのアムステルダムに送られました。ヨーロッパに、コーヒーの木が行つたのは、初めてだつたので、たいそうめずらしがられました。

(065.jpg)

十八世紀になつて、アムステルダムの市長が、フランス王ルイ十四世に、コーヒーの木を一本さし上げました。それは長く続いた戦争が終わつたので、平和のしるしとして送られたものでした。

フランス王は、このコーヒーの木を、パリの植物園に植えて、大切に育てました。そして、その実からいく本かのなえを仕立てて、西インドしょ島にある植民地マルチニクで、さいばいしようと思いました。

ちょうどなえができるとき、ガブリエル＝マチュー＝ド＝クリウという人が、マルチニクに行くことになりました。フランス王は、かれにコーヒーのなえをわたして、マルチニクでさいばいすることを命じました。ド＝クリウは、コーヒーのなえを持つて船に乗りこみ、マルチニクへ向かいました。

小さなはん船なので、大洋を航海するのは、なかなか大変なことでした。船は、と中であらしに会つて流されたり、海ぞくにおそれたりしました。この苦しい航海の間も、ド＝クリウは国王からあずかったコーヒーのなえを、からすまいとして一生けんめいでした。少ない飲み水も、コーヒーのな

えと分け合いました。

ド＝クリウの愛と苦心によつて、コーヒーのなえは、元
氣でマルチニクに着きました。

(066. .jpg)

それはすくすくと育ち、さうにその種から仕立てられたな
えは、やがてりっぱなコーヒー園になつていきました。そし
て、コーヒーは、このマルチニクから、付近の島々や、中央
アメリカにわたつていきました。

今日、コーヒーが飲料として、世界中の人に親しまれるよ
うになつたのは、命がけで、コーヒーのなえをマルチニクに
運んだド＝クリウの愛と苦心によるところができます。

さて、コーヒーは、どんなにして「ブラジルへわたりてきた
のでしようか。

一千七百一十七年、パラーの総とく、マイア＝ダ＝ガマは、
フランシスコ＝メロ＝パリエッタを隊長とする一部隊を、フ
ランス領ギアナのカイエンヌに送りました。それは、ブラジ

ルとフランス領ギアナとの間で、これまで争ってきた国境の問題を話し合つたためでした。

カイエンヌに着いたパリエッタは、総とクロード＝オリビエをたずねました。その時、総とく夫人がパリエッタに、今まで見たこともないまゝ黒な飲み物をすすめました。なんともいえない良いかおりがしました。一口飲んでみると、たいそうおいしかったので、かれは夫人にたずねました。「これは、いったいなんというものですか?」

「コーヒーというものです。」

「おいしいですね。ヨーロッパの物でしょう。」「いいえ、コーヒーでできた物です。」

(新漢字 飲)

(067. カイエンヌ)

「え、コーヒー?」

パリエッタは、びっくりしました。

フランスは、ギアナにもコーヒーをさばいしてきました。総とく家のつむぎは、広いコーヒー園になつていきました。

パリエッタは、総とく夫妻の案内で、コーヒー園を見せてもらひ、いろいろコーヒーの話を聞きました。その時、かれの心に、一つの考えがうかびました。

「これだ。これを国へ持つて帰らう。きっと、喜ばれるにちがいない。」

パリエッタは、総とくにコーヒーの種を分けてくれるよう熱心にたのみました。

総とくは、氣の毒そうな顔をして、かれのたのみを「」とわりました。コーヒーの種は、国法によつて、国外に持ち出す」とが、きびしくきんじられているからです。

だが、かれはあきらめませんでした。その後も、総とくをたずねるたびに、同じ願いをくり返しました。

そのうち国境問題の話し合いは終わり、國へ帰る日が来ました。パリエッタの真心と熱心さに心を打たれた総とく夫人は、いよいよお別れといつ時、一にぎりのコーヒーの実をそつとかれの手にわたしました。

「さあ、さよなら。」

「ありがとうございます。さよなら」

パリエッタは、感げきにふるえる子で、総じて夫人の子を取り、別れのことばを述べました。

(068.jpg)

かれは喜び勇んで国に帰つてきました。しかし、まさか自分の持ち帰ったコーヒーの実が、後に、ブラジル第一の産業をおこすことになるつとは、ゆめにも思わなかつたでしょう。それは、一千七百一十七年五月のことだ、コーヒーの実は、農家に分けられ、さうそくさいばいされました。

一千七百六十年、國む大臣ジョン＝アルベルト＝カステロ＝ブランコは、パラ―から「一本のコーヒーなえを、リオ＝デ＝ジャネイロに取り寄せました。これをもとにして、コーヒーは、南へ南へとのびていきました。

コーヒーは、パライバ川にそつて進み、ミナス＝ゼライスとサン＝パウロにはいつていきました。それは、植民地時代から、帝政時代に移るゝ年のことでした。

その後コーヒーは、カンビーナスを中心とするテーラ＝ロ

ーシャ地帯に入り、そこを起点として、おくへおくへと進み、後に、「コーヒーの都」とよばれたリベイロン＝プレットに達しました。

こうして、コーヒーはサン＝パウロ州全体に広がり、ついにパラナ・ペネマ川をわたりました。今、北パラナは、海のように広いコーヒー園でおおわれています。

十九世紀のコーヒーサンバは、どれいの働きによつて、発達しました。どれい解放が行なわれると、コーヒー園主は、どれいの代わりに、外国から来る移民を使い始めました。

ブラジルが共和国になって後、十八年間にやつてきた移民は、百万人をこえました。サン＝パウロ州のコーヒー生産を

(新漢字 臣)

(069.jpg 挿絵あり)

さかんにしたのは、移民のがだといふことができます。

日本から移住してきた人たちも、ほとんどコーヒー園で働いたものでした。

今でこそ、「ブラジルのコーヒーか、コーヒーのブラジルか」といわれるほどですが、コーヒーは、なんの心配もなく発展してきたのではありません。

思いもかけないしもに会つて、大変不作の年もありました。またあまり多く生産されて、ねだんが下がり、こまつたこともありました。政府は、不作のときは農家に金を貸し、多く取れ過ぎたときは買い上げて、コーヒーを守つてきました。コーヒーの不景気時代には、政府は、七千八百万びょうものコーヒーを買い上げて焼いたといわれます。

第二次世界大戦前までは、大体コーヒーのねだんが安く、生産も少なくなつていきました。けれども、大戦が終わって、世界の国々が栄えてくると、ふたたびコーヒーの景気が出できました。

コーヒーは、ブラジルの

けいざいのささえとなつて

きました。コーヒーが無か

つたら、国の発展は無かつたでしょう。そして、これ



コーヒーのしゅうかく

から後も、コーヒーを土台として、ブラジルは発展していく」とでしょう。

(074.jpg 右pg のみ。横書き、『』〇囲い、■アンダーラインあり。)

内 容 に つ い て

4～10 短歌と俳句 日本古来の短詩形文学である短歌・俳句に対して目を開かせ、分かり易い短歌・俳句を鑑賞し、理解させ、親しみを持たせる。『注』短歌・俳句を作る学習にまで発展させることは期待していない。

11～32 世界の国々 視野を南米から世界に広げ、各国の特色を知り、合わせて世界の一員としての自覚をつちかう。【一 南アメリカ】ここでは、南アメリカについての地理的・歴史的知識を深めさせる。南アメリカの国々の名・産業・地形・簡単な歴史を教える。【二 インカ帝国】インカ帝国に関する父の話を取り出したものである。500年のむかしに栄えたインカ帝国について関心を高め、歴史に興味を持たせ、研究心を起させたい。【三 外国めぐり】(1) ニューヨーク (2) ロンドン (3) パリ (4) ローマ (5) ジュネーブ (6) カイロ (7) カルカッタ (8) 北京の八都市とその国々の特色を述べた説明文である。写真と文章とを対照させながら読ませ、

世界の国々に興味と関心を持たせる。『注』各国の絵はがき、写真などを集めて説明し、理解させる。

33～39 アフリカの父 アフリカで一生を終わつたリビングストンの物語である。人間形成の上に忘れてはならないものは、あたたかい人間愛と、たくましい意志の育成である。ヒューマニズムの精神を物語で表現したものである。

40～44 文字のいろいろ 児童たちは、かなり文字に習熟してきたので、ここでは、その文字をはつさり認識させるこ

とをねらいとしている。文字の持つ社会的使命を理解させ、漢字・かな・ローマ字のそれぞれの起原を教え、文字の認識を深める

45～52 通信と報道 われわれの社会生活に重要な役割を占めている通信と報道機関について、その重要性を学びとらせ、基礎的な知識と態度を指導する。【一 早くなった通信】ここでは、通信の起りから始まって、現代までの発達経過を教える

【二 空飛ぶニュース】新聞とラジオ・テレビについて簡単な発達経過と報道機関

先生と父母へ

話す・聞く・読む・書くの四つの言語能力は、知識・思考・情操など精神的な内容と密接に結びつながりながら発展していくものです。日常生活から、社会生活、また内面的生活へと、その視野と思考を広め深めてきましたが、この教科書では、いつそう広い社会生活へのひろがりを計ることもに、社会から個人へ目をもどして、現代の生活を考えさせ、正確な知識と判断力を養い、しつかりした生活態度を身につけさせるように考慮しました。この教科書で、一応初級部を完了するようにしたため、漢字・語い・内容などに、多少高度のものを探用しました。もちろん、これで充分ではありませんが、全八巻の学習によって、日本語における、初級の四つの能力を身につけ、さらに上の段階への意欲と興味を持たせるのに役立たせることができます。

題材の選定 一応の仕上げとして、言語指導の面から、「短歌と俳句」「文字のいろいろ」「学校新聞」「ことばを分ける」「わかりやすい表現を」などを設け、物語の鑑賞として、

「インカ帝国」「アフリカの父」「コロンブスのたんけん」「コーヒー物語」などを設けました。社会科の知識的なものとして「世界の国々」「美しい国立公園」「今の人々くらいし」を、理科的なものとして、「通信と報道」「天体と地球」「微生物と細菌学者」などを設定しました。

(073. → □『』○囲い、【】アンダーラインあり)

5356 学校新聞 学校新聞を通して、よりよい学校生活の建設を示す。学校新聞の編集内容・編集技術についての基礎知識を得させ、学校新聞発行の可能性を示し、積極的・意欲的な生活態度を養う。学校新聞の編集会議の仕方を教え、実践させる。報道文の形式になれば、簡潔な文を書く能力を高める。能率的な文書実務能力について指導する。仕事の結果に対しては反省する習慣をつけさせ、さらに発展させる態度を養う。
5859 心に太陽を持て よく愛誦される詩である。高学年生として、この詩の精神を読みとらせ、生活態度について話し合いをさせたい。

6068 天体と地球 天体に関する話は児童が非常に興味を持つものである。科学的な好奇心を良導し、月・星・地球に関する簡単な知識を与え、さらに深く研究する動機をうえつけたい。科学的な説明文を理解する能力を養う。

6977 コロンブスのたんけん 鑑賞させる物語として取りあげたもので、次の事項を学ばせたい。①物語を楽しんで読む。②探検の苦心を読み味わう。③コロンブスの人となりを文の上から読みとる。④文の段落に注意させ要約の練習をす

る。⑤

読後感を話し合う。

78～80 ことばを分ける これまで系統的に学習してきたことばに対する認識を、ここでは単語のおもな品詞について認識させる。名詞・動詞・形容詞・副詞をとりあげてあるが、この文と共に、前出の助詞・接続詞なども復習し、形容動詞・代名詞も加えて、簡単な文の構成を指導してほしい。

81～97 微生物と細きん学者 われわれの生活と重要な関係にある微生物について、簡単な知識を与え、オズワルド＝クルースとカルロス＝シャガス、野口英世の伝記を読ませる。 微生物 微生物の種類、微生物とわれわれの生活との関係を知らせ、科学的な文になれさせる。 2 オズワルド＝クルース 3 カルロス＝シャガス 4 野口英世 かれらの一生のあらましを知らせ、生活態度を読みとらせて、親しみと尊敬の念を持たせる。

98～100 雨ニモマケズ 宮沢賢治の詩を読ませ、かれの人となりを説明し、生活態度を学ばせたい。作品を通して、かれの考えをどう思うかについて感想を発表させ、将来の希望について話し合いをさせたい。

101～104 美しい国立公園 ブラシルの国立公園であるイグアスー・イタチアイア・ラ＝ドス＝オルゴンス・パウロ＝アフォンソについて、その美しさを写真入りで説明した文である。説明を順序よく読みとる能力を養う。『注』地図・絵はがき写真などにより、国立公園についての認識を深めさせる。 105～118 今の人々の暮らし 現代の生活を理解させようとして取りあげたもので、抽象語の多い論説風の文である。内容理解に力を注ぎ、思考力や批判力を養いたい。

仕事の大体を教える。【一】 しょく業のいろいろ 職業の種類とその

貨への役目を教える。【三 物のねだん】物価についての基本的知識を与える。【四 社会の進歩】社会の成り立ちについて教え、社会の一員として秩序を守る態度を養う。【五 科学と 技術】近代生活は、進歩した科学と技術によつて成り立つものであることを教え、その重要性を理解させる。【六 みんなで楽しむ美術】美術はわれわれの生活にうるおいを与えてくれる。美術について簡単にその発達経過を教え、関心と理解を深める。

119～123 わかりやすい表現を 文章にしても会話にしても、わかりやすく表現することは最も重要である。言語指導のしめくくりの意味で「」に取りあげたものである
『注』文を読ませ、実例をあげて、あらゆる場合の指導をしてほしい。

124～135 コーヒー物語 ブラジルから切りはなすことのできないコーヒーについて、史実にもとづいた物語文を楽しく読み通し、コーヒーに対して理解と愛情を持たせる。『注』この種の長編物語に興味を持たせ、他のものに発展させたい。

☆以上、内容は相当高度に発展してきたけれども、「日本語」の教科書であるという基本を忘れずに、できるだけ文章・語句に即し、読む・聞く・書く・話すことの修練によつて、その内容がいつそう理解され、日本語への興味・関心が高まるよう指導されたい。

今までに習つた漢字

- (1) 一二三四五六七八九十日小木下川大上月子手足中牛人
- (2) 石方出水赤青土口夕走目耳左右女光外見声力本火白立金
犬入山
- (3) 行田先生年学校音合雨天氣車歩半分平回前字空広花汽長
夏冬高糸休貝早虫少知林元風作台夜組村会馬品町黒色千
何百国名書形竹奄思引古玉毛切友男地神今太秋南野北森
自正
- (ん) 来久話言当図画用紙度返事家草葉安心向朝持西多去聞時
近東京場海所文読次記間黄池王島根同血止道考屋繪店米
壳買取明戸仕原樂門全工美使春刀雲
- (5) 教室新始番徒数相談角順君宮顔重物動具板注意員曜午
後終受雇集者歌助星寒々乗波遠族進住命畠以守通勉強部
祭運役急式客谷晴才世弱死両追礼着食皮病配語号指材料
点母界父魚都州公園市体育研究民苦感雪鳥表旅
- (6) 庭飛遊拾付落鳴戰負初勝味旗念祝緑円連定曲機球面茶陸
湖線鉄路交繞央岸比温万船隊航發喜変起間送移残帰独最
代共和第問卒業頭勵愛打弟妹活軍実恩流首種關係置細農
燒由肉柱建銅深他布医清短坂役習別岩調筆府駅区局社商
寺有浴博館類港暑様身似利毒折便底綿転写理科化成益害
答惡菜果親橋器特待服席電燈消暗速兄説決荷等衣主芽
- (7) 詩歎幸福養求息結常周囲無型選示製非約案内積設築銀過
官舎階院政治造統領計題未展願希望位置列洋季節然億

達景県富揚歴史脈余散在複群紀皇蚕織伝漢仏芸法規則必
要武勢争氏側土倍努識得信真低差述限直借失週予寄河照
張精敗劣系耕產增牧級技師術不辭報告往復善迷敬悲退忘
接熱薬齒印刷各救防完功績申適對飯冷罪老靜祭兵令團練
覓試承鼻陽典競末唱際參輪章確序錄極塩械滿秒整妻雜律
算解放良橫

(070. jpg ~ 071. jpg 漢字、言葉一覽表)

(074. jpg 左 pgのみ 上段、下段あり)

元文部省図書監修官

監修林実

元
（在東京）

編集執筆（ABC順）

古野菊生

二木秀人

加藤千重子

岡崎親

坂田忠夫

武本由夫

表紙・挿絵（ABC順）

星玉木勇治

ルリ子

日本語(8)

一九六一年七月二十五日 印刷
一九六一年七月三十日 発行

定価

著作者 日伯文化普及会

日本語教科書刊行委員会

発行者 日伯文化普及会

ブラジル、サン・パウロ市、
サン・ジョアキン街二八一

東京都千代田区神田神保町三ノ二九

印刷者 株式会社帝國書院

代表者 守屋紀美雄

発行所

日伯文化普及会
ブラジル、サン・パウロ市、
サン・ジョアキン街二八一